



国語を様々な側面からみて、日本語の面白さや深さを知ってもらえればと思います。

## 問題【国語】

次の古文単語の意味を答えましょう。

(1) なやむ

(2) あつし

(3) おこたる

## 豆知識 雑学コラム

# 悩ましい？ 古文単語

今日は古文単語の中でも病気に  
関わる言葉を見ていきましょう。

古文が書かれた平安時代は、現在  
のように病気の原因や治療法など  
全く分からない時代でした。その  
ため、病気はお化けや幽霊の仕業  
だと考えられ、「ものけ」と呼  
ばれていました。そして、病気に  
なると今のように病院に行って治  
すのではなく、お坊さんを家に呼  
んで、お祈りをして病気を治そう  
としました。このように今とは病  
気に対する考え方が違う時代、病  
気についてどんな言葉を使ってい  
たのか見ていきましょう。

まず、「なやむ」です。現代語  
では「あれこれと心をいためる」  
という意味で、精神的、心理的な  
問題に使うことが多い単語です  
ね。古文では、この「なやむ」を

「病気である」という意味で使う  
ことがありました。古文では、一  
つの単語を現在よりもより広い意  
味で使うことがあります。「なや  
む」も、精神的なもの以外に肉體  
的なものも含めて、「問題があっ  
て、元気がない」ということを表  
して、「病気になる」という意味  
で使いました。

「あつし」も同じように今より  
広い意味で使われていた言葉で、  
「体が熱くなる」ということから、  
「(熱があつて) 病気である」と  
なったという説もあります。

最後の「おこたる」は「病気が  
治る」という意味です。病気を引  
き起こしているお化けや幽霊が悪  
事をやめる(おこたる) と病気が  
治ると覚えておきましょう。

古文の話の中では、登場人物が  
病気になる話がよくあります。病  
気に関わる言葉を覚えて古文の読  
解に生かしましょう。

## 【解答】

- ① なやむ(病)
- ② あつし(熱)
- ③ おこたる(治)